

(シンポジウム「ここまで来た!心臓血管外科治療の最前線」)序文

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-09-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新浪, 博 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032306

第 84 回東京女子医科大学学会総会
シンポジウム「ここまで来た！心臓血管外科治療の最前線」

日 時 2018 年 9 月 29 日（土）13：10～16：00

会 場 東京女子医科大学 弥生記念講堂

座長（東京女子医科大学医学部心臓血管外科学 教授・講座主任）新浪 博

1. 重症心不全の Futurability （大阪大学大学院心臓血管外科 教授）澤 芳樹
2. 植込型補助人工心臓治療の最前線 （北海道循環器病院先進医療研究所 所長）山崎健二
3. 心臓移植の贈り物 （東京女子医科大学大学院重症心不全制御学分野 教授）布田伸一
4. 低侵襲カテーテル治療の最前線—TAVI の現状と未来—
（獨協医科大学埼玉医療センター心臓血管外科 准教授）鳥飼 慶
5. ロボット支援心臓手術 （帝京大学医学部心臓血管外科 主任教授）下川智樹

序 文

（東京女子医科大学医学部心臓血管外科学 教授・講座主任）新浪 博

本邦における心臓手術の第 1 例目は本学の榊原任先生によって、昭和 26 年 5 月に動脈管開存結紮術が行われました。続けて昭和 29 年 9 月には低体温法を用いた国内初の開心術に成功されました。日本における心臓血管外科の歴史はここから始まっています。榊原先生は、「胸壁と心臓との距離は数センチメートルだが、外科医が到達するまでに 2000 年の年月を要している。科学の発達には月日が要る」とのお言葉を残されていますが、榊原先生の第 1 例目の手術から 67 年余りが経過し、心臓血管外科の治療は急速な発展を遂げています。心臓移植の実施、補助人工心臓の開発、低侵襲治療、ロボット支援手術とこれまで様々な治療法、医療機器等が多くの医師、研究者によって研究、開発され、臨床で多くの患者を救ってきま

した。日々進歩する医療において心臓血管外科治療の発展は目覚ましいものがあります。心臓病と偏に申しても、疾患における専門性は非常に高く、それぞれの医師のスキルも自ずと高いものが求められます。それぞれに切磋琢磨し、日本は世界でも非常に高いレベルの治療が行われているのです。

今回のシンポジウムでは最新の心臓血管外科治療について、各分野の本邦におけるリーダーにご講演いただきました。一般の方、医療関係者ともに本当に「ここまで来た！」とさせていただける内容であり、心臓血管外科治療において、より多くの方に希望をもたらし、ご理解いただけたシンポジウムになったことと思っております。